

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)徳川1丁目Aプロジェクト	階数	地上8F
建設地	名古屋市東区徳川一丁目401番	構造	RC造
用途地域	商業地域・第2種住居地域、防火地域・準防火地域	平均居住人員	127 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年10月12日
敷地面積	548 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	364 m <sup>2</sup>	確認日	2023年10月16日
延床面積	2,407 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 96%

③上記②以外のオンサイト手法: 96%

④上記+オフサイト手法: 96%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 地域に調和する敷地利用計画とすると共に、街並みにアクセントを与える建物とする。		その他
Q1 室内環境 住戸に自然の光と風を採りこみ開放性を持たせると共に、断熱性と遮音性の向上を図る。	Q2 サービス性能 「ハートビル法利用円滑化基準」対応に努め、ゆとりある空間構成に努める。	Q3 室外環境 (敷地内) 公共空間に圧迫感を与えない建物配置とし、敷地内の緑化に努める。
LR1 エネルギー 建物の採光・通風・断熱性の向上を図ると共に、省エネ対応に努める。	LR2 資源・マテリアル 設備機器は節水型を採用する。又、リサイクル資材の採用に努める。	LR3 敷地外環境 周辺地域の環境を害さない住空間の構成を図る。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)徳川1丁目Aプロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.7</b>
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



#### 2. 自然共生

評価点 = 2.3



#### 3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。